

平成15年度 学力向上フロンティア事業中間報告書

(都道府県名 長崎県)

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	長崎県北松浦郡 鹿町町立鹿町中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	14
生徒数	52	63	59	1	175	

研究の概要

1. 研究主題

学校・家庭・地域が連携して取り組む確かな学力の向上
～教科経営・学級経営・家庭における学習の連携を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

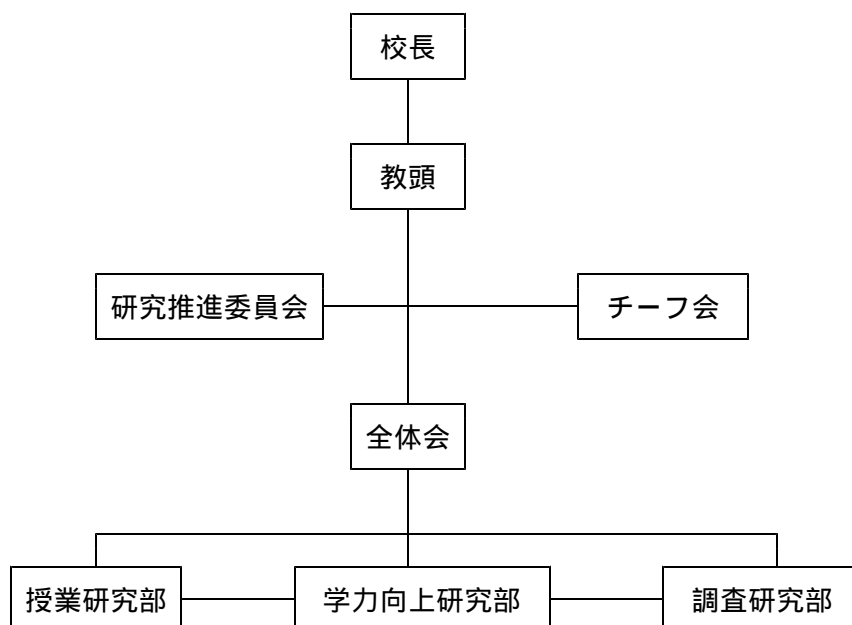
主に教科担任が2人いる下記の教科で実施
・第3学年の基本的な教科(国語・数学・理科・英語)で実施
・必要に応じて1, 2年生でも実施
生徒の理解に差が出やすい教科であることと併せて, 上記の4教科は, 少人数指導や習熟度別指導が可能であったため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学校・家庭・地域が連携して取り組む確かな学力の向上 ～教科経営・学級経営・家庭における学習の連携を通して～</p> <p>仮 説 (1) 学校・家庭・地域を一つの教育機能ととらえ, 個に応じた指導方法・体制の工夫改善を行えば, 基礎的・基本的な内容の理解が進み, 学力の向上につながるであろう。 (2) 生徒会活動を中心に, 基本的な生活習慣の定着や落ち着いた学習環境作りに取り組めば, 自ら学び自ら考える習慣が身につく, 目的意識を持った行動がさらに目的を持った学習につながり, 「確かな学力」の向上につながるであろう。 (3) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発と併せて, 家庭学習の在り方など保護者の啓発を行い, 工夫改善することで, 学ぶ習慣を身につけることができるであろう。</p>
	<p>研究の内容・方法</p> <p>〔研究の内容〕 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫 生徒の学力の評価を生かした指導の改善 等</p> <p>〔研究の方法〕 1. 研究の基本教科を中心に, 少人数指導や習熟度別指導等の指導方法や指導体制の工夫改善を行う。 2. 生徒会活動を中心に, 基本的な生活習慣の定着や学習環境を整えることで, 意識の高揚を図る。(朝自習の取り組み等) 3. 個に応じた指導のための教材の開発と併せて, 家庭学習の啓発と工夫改善を行う。(家庭学習記録表作成等)</p>

平成16年度	<p>テーマ 学校・家庭・地域が連携して取り組む確かな学力の向上 ～教科経営・学級経営・家庭における学習の連携を通して～</p> <p>仮説 (1) 学校・家庭・地域を一つの教育機能ととらえ、個に応じた指導方法・体制の工夫改善を行えば、基礎的・基本的な内容の理解が進み、学力の向上につながるであろう。 (2) 生徒会活動を中心に、基本的な生活習慣の定着や落ち着いた学習環境作りに取り組めば、自ら学び自ら考える習慣が身につく、目的意識を持った行動がさらに目的を持った学習につながり、「確かな学力」の向上につながるであろう。 (3) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発と併せて、家庭学習の在り方など保護者の啓発を行い、工夫改善することで、学ぶ習慣を身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 〔研究の内容〕 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫 生徒の学力の評価を生かした指導の改善 等 〔研究の方法〕 1. 研究の基本教科を中心に、少人数指導や習熟度別指導等の指導方法や指導体制の工夫改善を行う。 2. 生徒会活動を中心に、基本的な生活習慣の定着や学習環境を整えることで、意識の高揚を図る。(朝自習の取り組み等) 3. 個に応じた指導のための教材の開発と併せて、家庭学習の啓発と工夫改善を行う。(家庭学習記録表作成等)</p>

(3) 研究体制



平成15年の研究の成果及び今後の課題

1. 少人数指導アンケート集計結果より

(1) 少人数授業を行いました。学力向上に効果があったと思いますか？

	効果があった	変わらない	効果はなかった
国語科	57%	39%	4%
数学科	85%	15%	0%
理科	84%	16%	0%
英語科	56%	42%	2%

(2) 少人数で行う授業は、クラス全員による一斉授業に比べてどうでしたか？

	効果があった	変わらない	効果はなかった
国語科	77%	23%	0%
数学科	93%	7%	0%
理科	84%	16%	0%
英語科	76%	24%	0%

(3) 少人数で行ったことに対する感想や意見を書きなさい。(上部が多数)

国語科 ・少ない方が授業に参加しやすい。(発表や質問など)

- ・分かりやすい。
- ・あまり変わらない。
- ・落ち着く。 ・集中できる。
- ・分け方を工夫した方がよい。

数学科

- ・質問がしやすい。
- ・集中できたし楽しかった。
- ・教え方が違うのでよかったとは思わない。
- ・とても分かりやすい。
- ・全員より授業がしやすい。
- ・一人一人教えてもらえる。

理科

- ・(分かる、分からないなどの)反応がしやすい。
- ・先生の指導が行き届いた。
- ・授業を受けやすい。
- ・テストの点数が上がった。
- ・楽しい。
- ・勉強がしやすい。
- ・学力向上にはつながっていない。
- ・実験などみんなやれるからいい。
- ・集中できる。

英語科

- ・より集中して学習できる。
- ・質問しやすい。
- ・分かりやすい。
- ・恥ずかしがらずに発表できる。
- ・間違いを恐れなくなった。
- ・一人一人がきちんと反応できる。
- ・発表する場面が多くなった。

2. 各研究部の成果及び今後の課題

(1) 授業研究部

成 果

指導案の書き方を先進校に倣い研究した。さらに授業での学力向上を目指すための少人数のグループ分けに注目して研究および授業実践を行った。

少人数授業のコース編成は教科により差異はあるが、習熟度別、均等分け、名簿等による分け方でコース編成をした。

習熟度別で授業をした理科では、下位生徒の成長が著しく見られたが、下位生徒のコースに進度を合わせたため全体的に進度が遅くなっているという問題点も見られた。

今後の課題

今年度の「授業研究部」の活動が、「授業研究」というより、「教科研究」になってしまっている。

下位生徒の学力向上には限界があるため、下位生徒中心ではカリキュラム消化が難しい。

以上の2点より、次年度「授業研究部」は「選択教科」の指導方法・指導体制を研究する方がよいのではないかという意見がある。

【国語科】

成 果

文法の一斉指導、範読CDを聞く、ビデオ視聴、作文等はT.T.で指導をし、音読練習や読解は少人数で行うなど、授業の内容によりT.T.と少人数指導を効果的に使い分けることができた。

T.T.では、T1が文法指導をした直後、T2がそのまとめの小テストをするというように、教師間の連携の取れた授業ができ、授業の質と密度の高い実践ができた。T1、T2の連携の取れた授業経営は、生徒に安心感をもたらし、授業が楽しかったという感想が多かった。

T.T.の授業では、T1・T2が役割分担するだけでなく、1単位の授業の中で、お互いの授業を見せ合い、研修しあう姿勢が生まれた。

12時間目の作文の授業では、参考作文を見ながら、500字の課題作文に熱心に取り組み、仕上げることもできた。

今後の課題

音読や意味調べなど家庭学習の習慣の形成を図ったが、なかなか習慣化まではできなかった。

12時間の授業の中では、「語感を磨き、語彙を増やそう」と意味調べに力を入れた。プリントの意味調べまではできたが、短文を作るなどして実際に使わせなかったため、語句の定着率が低かった。敬語も同じである。国語科は言語の学習なので、実際に使わせながら定着を図ることが大事である。

【数学科】

成 果

確実な学習意欲の向上と、学力の向上が見られた。また、授業中おとなしい生徒が多く見られた学年であったが、積極的な授業態度が見られるようになった。

少人数授業によって、生徒一人一人に目が届くようになり、きめ細かな指導ができた。以前は数学が苦手な生徒が、黙ってやり過ごしていたが、少人数になったことにより、教師の目が届き、生徒自身が何とか分かるよう努力するようになった。

今後の課題

より分かりやすく個を伸ばす発問や授業の工夫。

家庭学習の啓発。

生徒の意欲をどう向上させるか。

【理 科】

成 果

習熟別の基礎コース、発展コースに分けることで、個に応じた授業を展開できた。

基礎コースでは細かなところまで指導が行き届き、基礎・基本の定着に近づいた。他にも分かる喜びを実感しながら意欲的に学習することができた。内にもる生徒

が多い学年だが、質問も多く見られるようになった。

発展コースでは、基礎・基本の定着をもとに、自分の能力をさらに高めるため、単元ごとに学習が深化していた。高い関心を持って活動することができ、特に興味を持った事象を自ら考察する活動が見られた。

今後の課題

習熟度別のクラス分けが、今のところは生徒の意識向上につながっているが、生徒の習熟度、また心情などを考えるとコース数や設置基準に工夫が必要である。

支援が必要な生徒によっては個別指導や補充指導などの必要性を感じるが時間の確保が難しい。

コース別での指導方法の細かな差異で一部評価の統一が難しかった。指導前に綿密な指導方法・評価方法の工夫が必要である。

基礎・基本の定着のため、細かく指導を実施しすぎたため、授業の進度が遅れ気味になった。もう少し内容を精練し、効果的に細かな指導を行う工夫が必要である。

少人数コース別での授業の際、実験器具の不足が多かった。少人数の特性を生かすため、コース別での実験の際の指導計画に工夫が必要である。

【英語科】

成 果

少人数授業，JTE同士のT・T．を実施した。生徒一人一人に目が行き届き，学習状況・理解度が把握しやすかった。

教師ができる限り英語を使いながら，英語学習の雰囲気作りにつとめた。身近な物や人物，ピクチャーカード，優しい単語や文を用いながら，新出文型の導入や本文の内容を説明することによって，生徒の理解が深まった。

教師同士が互いに指導方法の研究を深めようと積極的に取り組んだ。

生徒がそれぞれの活動により集中して取り組むことができた。学期末に少人数授業についてのアンケートを実施したところ，「質問・発表がしやすかった。」「一人一人がきちんと反応できる。」「間違いを恐れなくなった。」など意欲的に取り組んだという意見が多かった。

今後の課題

少人数授業，T・T．とともに進捗状況や打合わせ等の時間の確保に苦慮している。

単元の中で，少人数授業やT・T．をどの場面でどのように展開していくか，効果的な指導方法，指導体制の研究をしていく必要がある。

教材づくり（ワークシートやカード等）の工夫，研究を深めたい。

少人数授業のクラス分けについては，出席番号順で編成したが，おとなしい生徒が多く集まったコースもあり，声を出させるのが難しかった。次年度に向けてコースの編成の仕方も研究しなければならない。

教室の確保，時間割の調整については，現在はうまく進めることができている。

生徒はより集中して授業に取り組んでいるが，表現力の定着においてはまだまだ不十分であり，授業の改善，工夫が必要である。

今年度は，3年生で少人数の授業を実施したが，次年度は1年生（特に1学期の入門期）で行った方がよいのではないか。

特に支援が必要な生徒に対してはさらに個別指導が必要ではないかと感じているが，授業時間だけでは難しい面がある。

（2）学力向上研究部

成 果

生徒会学習部が「授業の約束」を作り，発表の仕方や，反応の仕方，学習環境作り等を生徒自らが考え，計画し，取り組んでいる。また朝自習や家庭学習の呼びかけも学習部が中心となって行っている。

生徒会広報部が中心となって，朝自習開始前の10分間を「朝の読書時間」とし，読書に取り組むよう呼びかけ，実践している。

生徒会生活部は基本的生活習慣の定着，生徒会保健部は健康面の管理，生徒会給食部は「食」による心身の健康増進，美化部は校内の美化に努め，落ち着いた学習環境作りを生徒たち自身の手で行っている。

5教科の「学習の手引き」の冊子を作り，予習・復習・授業の受け方のポイントを生徒に提示した。

今後の課題

研究授業も朝自習の問題づくりも、国語科・英語科・数学科の教師が作っており、負担が偏っている。

「個に応じた」朝自習の課題づくり（教材の開発）

「個に応じた指導」朝自習の指導方法・指導体制の工夫改善

生徒の学力の評価を生かした朝自習の指導の改善

（３）調査研究部

成果

生徒の家庭学習の状況や少人数授業に関するアンケートを実施した。家庭学習は、ほぼ毎日実施しているが、定着できていると考えている生徒が少ないことが分かった。少人数授業は、ほとんどの生徒が質問しやすくなった等、効果が見られた。

今後、生徒の実態から「確かな学力の育成」の実現のための手立てを考え、実践していく必要がある。

今後の課題

保護者を啓発しての家庭学習の在り方の工夫改善

「個に応じた」家庭学習の課題づくり（教材の開発）

「個に応じた指導」家庭学習の指導方法・指導体制の工夫改善

生徒の学力の評価を生かした家庭学習の指導の改善

学力検査（６月，２月）の推移を分析する。

家庭との連携について、家庭学習計画の様式を完成させる。

学力把握のための学校としての取組

学力検査の実施

（１）調査の目的

客観テストを行うことによって、生徒の学力の程度を把握する。

分析結果は授業改善に役立てる。さらに保護者に知らせたり、町内２校の小学校にも知らせ、指導方法の改善等に役立ててもらおう。

（２）実施内容

年度当初「全国標準学力検査」を全学年で５教科実施（１年生は英語科を除く）

年度末「観点別到達度学力検査」を１，２年生で５教科実施。

両者の比較を行っている。（両検査は町費である。）

（３）実施時期

「全国標準学力検査」・・・６月

「観点別到達度学力検査」・・・３月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会開催実績及び開催予定	
(1) 第1回中間発表・・・平成15年11月7日(金)	教科・・・国語科, 数学科 全体会・・・平成15年度の研究計画と3部会報告 「研究の方向性」についての指導助言
(2) 第2回中間発表・・・平成15年12月9日(火)	教科・・・理科, 英語科 全体会・・・調査研究部の報告 「朝自習」についての指導助言
(3) 第3回中間発表・・・平成16年2月25日(水)	教科・・・国語科, 英語科 全体会・・・
(4) 今年度中に本校のWebページにアップロードし, 可能な限り随時更新予定。	
(5) 第4回中間発表予定・・・平成16年6月	教科・全体会の内容は未定
(6) 第5回中間発表予定・・・平成16年10月	教科・全体会の内容は未定
(7) 研究発表会開催予定・・・平成16年11月	教科・全体会の内容は未定

次の項目ごとに, 該当する箇所をチェックすること。 (複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T.T.による指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	